

平成23年 8月10日

地方独立行政法人大牟田市立病院
理事長 中山 顯兒 様

地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会
委員長 薬師 寺道 明

地方独立行政法人大牟田市立病院平成22事業年度に係る業務実績
に関する評価結果について（通知）

地方独立行政法人大牟田市立病院の平成22事業年度に係る業務実績に対する
地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会の評価結果について、地方独立行政
法人法（平成15年法律第118号。以下「法」という。）第28条第3項の規
定に基づき別紙のとおり通知する。

地方独立行政法人大牟田市立病院
平成22事業年度に係る業務実績に関する評価結果

平成23年8月

地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会

委員長 薬師寺 道明

目次

| | |
|------------------------------------|----|
| 年度評価の方法 | 1 |
| 第1 全体評価 | 1 |
| 1 評価結果 | 1 |
| 2 全体評価にあたって考慮した事項 | 2 |
| 第2 大項目評価 | 3 |
| 1 住民に対して提供されるサービスその他の業務の質の向上に関する事項 | 3 |
| (1) 評価結果 | 3 |
| (2) 判断理由 | 3 |
| 大項目評価にあたり考慮した事項 | 3 |
| (3) 評価にあたって意見、指摘等 | 5 |
| 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 | 6 |
| (1) 評価結果 | 6 |
| (2) 判断理由 | 6 |
| 大項目評価にあたり考慮した事項 | 6 |
| (3) 評価にあたって意見、指摘等 | 9 |
| ○地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会委員名簿 | 10 |
| ○平成23年度地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会開催経過 | 10 |
| 参考資料 | |
| 地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会 評価一覧 | |
| 〈財務関連資料〉 ○平成22事業年度 予算、収支計画及び資金計画 | |
| ○貸借対照表・損益計算書・キャッシュ・フロー計算書 | |

地方独立行政法人大牟田市立病院平成22事業年度に係る業務実績に関する評価結果

年度評価の方法

地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会（以下「評価委員会」という。）では、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第28条第1項の規定に基づき、平成22年4月1日に設立された地方独立行政法人大牟田市立病院（以下「法人」という。）の平成22事業年度に係る業務実績に関する評価を行った。

評価を行うにあたっては、「地方独立行政法人大牟田市立病院に対する評価の基本方針」並びに「地方独立行政法人大牟田市立病院の年度評価実施要領」（※いずれも平成22年8月31日評価委員会にて決定）に基づき、「項目別評価（小項目評価・大項目評価）」と「全体評価」により評価した。

具体的には、「項目別評価」では、年度計画に定めた事項ごとに法人による自己評価をもとに、ヒヤリング等を通じて、自己評価の妥当性や年度計画に照らし合わせた進捗状況を確認した。また、「全体評価」では、項目別評価の結果等を踏まえつつ、法人化を契機とした病院改革の取組みなども考慮しながら、中期計画等の進捗状況について総合的な評価を行った。

第1 全体評価

1 評価結果

平成22事業年度に係る業務実績に関する評価について、「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」、「業務運営の改善及び効率化に関する事項」の2つの大項目において、A評価（中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる）が妥当と判断した。具体的には、7対1看護体制の確立、新人事給与制度の導入、がん診療に関する取組み強化などの分野において、法人の積極的な取組みとそれに伴うめざましい成果が伺える。

また、財務内容については、法人移行後1年目にして、当初の目標を大きく改善する安定した経営基盤を構築されている。地方独立行政法人制度の特徴である機動性や柔軟性などを最大限に発揮し、収益の確保と費用の節減に取り組んだ結果が伺える。特に経常収支比率を見てみると、年度計画の目標値105.7%に対して、実績値112.8%と計画を大きく上回り、決算額としては、約5億5,800万円の単年度の黒字を計上している。この主な要因としては、中核病院として機能を維持しつつ、入院単価、外来単価並びに手術件数等においてともに計画を上回る実績となったことなどがあげられ、法人の公共性及び経済性を両立させた健全経営が行なわれていると判断する。

このようなことから、平成22事業年度に係る業務実績としての全体評価は、「中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる」と評価する。

しかしながら、中核病院として地域完結型医療を担う上での、急性心筋梗塞等に対応できる循環器専門医の確保等については、今後も最大限の努力を図られたい。

2 全体評価にあたって考慮した事項

(1)「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」の大項目においては、患者本意の医療の実践（重点項目）について患者に則したインフォームド・コンセントや相談支援体制の充実など、患者の目線にあった対応の結果、新規入院患者数は過去最高の7,366人となり、法人の掲げる基本理念である「良質で高度な医療を提供し、住民に愛される病院を目指す」に沿った取り組みへの努力が伺える。

また、がん診療の取り組みについては、前年度に比べ、手術件数等が顕著に増えており、地域の医師も参加する研修会など、がん診療の水準の向上に努めている。救急医療の取り組みについては、救急車搬送患者数が、目標を若干下回る数値となったが、救急隊との連携を深めながら軽症患者の搬送件数をできるだけ減らす努力を行なった結果であり、地域の医療機関との役割分担が一定できてきたとみなすことができる。これらのことから、大項目評価としては、A評価（中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる）とした。

(2)「業務運営の改善及び効率化に関する事項」の大項目については、法人化を契機に新しい病院を目指す様々な企画、立案が、実行されてきている。具体的には、人材の確保と育成において、7対1看護体制が確立できたことにより、看護体制はもちろんのこと、経常収支の改善、教育・研修体制の充実など様々な病院の運営や機能拡大に良い影響を及ぼしており、高く評価することができる。また、研修医の確保のための医学生奨学金貸付制度や看護学生奨学金貸付制度の創設により、優秀な人材の確保に積極的に取り組み、それぞれ、医学生5名、看護学生4名に対し、貸付を決定している。

また、職員の定着のための平成23年秋の院内保育所の開設に向けた設置準備、手続きが順調に進んでいるとともに、新人事給与制度については、病院の機能、保持を基本に5年先10年先を見通したうえで、労使間での真摯な議論のもと、新たな人事給与制度と位置づけて取り組んでいる。

これらのことから、評価としてはA評価（中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる）とした。

第2 大項目評価

1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

(1) 評価結果

A評価（中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる）

(2) 判断理由

小項目評価の集計結果（第2表小項目評価の集計結果を参照）より、「5」の評価を付けたものが1項目、「4」の評価を付けたものは、10項目に上った。また、「3」の評価を付けたものが3項目あるが、いずれも関連指標の中での目標値に比べ、実績値が若干下回ったもので、病院運営上の支障とはならないレベルである。

また、重点とした項目については、全項目「4」以上となっており、中でも「がん診療の取組み」においてのがん手術件数（実績、565件）の大幅増加や「相談支援体制の充実」における新規入院患者数（実績、7,366人）が過去最多に上っていること、さらには、「地域医療の支援」において、紹介率（53.2%）及び逆紹介率（61.4%）が、「地域医療支援病院」の承認要件をクリアするなど重点項目の達成度を考慮し、大項目の評価としては「A」評価が妥当であると判断した。

<第1表 大項目の評価方法>

大項目評価は、小項目評価の結果、各重点項目の達成状況並びに特記事項の記載内容等を考慮し、大項目ごとに中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況について、次の5段階による評価を行う。（地方独立行政法人大牟田市立病院の年度評価実施要領3（1））

S：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある

A：中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる

B：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね計画どおり進んでいる

C：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている

D：中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある

【大項目評価にあたり考慮した事項】

① 小項目評価が「5」（計画を大幅に上回る）の項目が、次の1件であった。

ア がん診療の取組み

がん診療については、手術件数565件、放射線治療数4,327件となり、計画を大きく上回る結果となった。また、臨床病理カンファランスを6回、臨床がんカンファランスを5回開催するなど、院内の医師、地域の医師など多くの医療従事

者が参加した取組みがなされ、地域のがん診療の水準の向上に努めていることを評価し、法人の自己評価「4」に対して「5」と評価する。

② 小項目評価が「4」（計画を順調に実施している）の項目は、次の10件であった。

ア インフォームド・コンセントの充実

患者や家族が診療内容を適切に理解し、納得した上で診療方法を選択できるようにするとともに、医師が患者へ説明を行う際は、看護師が同席するように努め、一方的な説明にならないように配慮している。また、検査技師や薬剤師など連携して専門的な見地からわかりやすい説明に努めている。

イ 相談支援体制の充実

がんに関する相談支援体制を充実し、地域医療連携室の職員が、がん相談支援センター相談員基礎研修会を受講するなど、相談員としてのスキルアップに努めている。また、セカンドオピニオンについても、日常の診療の中で取り組んでいる。

ウ 医療安全対策に実施

医療安全に関する研修会を2回実施し、MSM（メディカル・セーフティ・マネジメント）委員会を定期的を開催し、課題の整理等に当たるとともに、インシデントレポートの必要性を周知させ、報告は年間620件に上っている。

エ 臨床研究及び治験の推進

被験者の安全性を確保しながら2件の治験薬に取組み、治療効果や安全性検証のため6件の臨床研究についても取り組んでいる。

オ 法令・行動規範等の遵守

職員倫理規定を定め、職員への周知徹底を図っている。法人内での遵守違反等の具体的な事例もなく、一人ひとりの職員の法令遵守の意識の更なる向上を求める意味で、法人の自己評価「3」に対して努力目標も含んだ上で「4」と評価とする。

カ 診療情報等の適性管理

診療録等の個人の診療情報については、適正管理に努めており、関連規定に基づくカルテ開示は17件、情報公開としては1件対応している。

キ 救急医療の取組み

救急受入れ体制の強化を図り、救急隊との連携による軽症患者をできるだけ減らす努力により、中度、重度の患者中心の搬送を行い、入院治療が必要となった患者数は前年度の水準を維持している。

ク 母子医療の取組み

助産師外来としては、助産師によるエコー検査を含めた妊婦健診の充実や母乳育児相談等を行い、妊娠、分娩等を通じたケアの充実を図っている。また小児医療においても、2次救急及び入院医療を中心に、地域の中核病院としての役割を果たしており、紹介状持参の小児患者数は入院、外来を合わせ1,427人となっている。

ケ 地域医療の支援と「地域医療支援病院」の承認

他の医療機関から紹介を受けた患者数の比率は53.2%、他の医療機関へ紹介した患者数の比率は61.4%と急性期医療を担う中核病院として、一定の役割を果たしている。また、地域医療支援病院の承認を受けるため、「地域医療支援病院委員会」設置に向けた取組みを始めている。

コ 地域医療機関との役割と機能の分担

地域医療連携懇親会を開催し、地域の医療機関及び法人の職員合わせて300人が参加し、地域の医療機関同士で顔の見える連携に取り組んでいる。脳卒中地域連携パス等の運用を開始し、96件の実績を上げ、地域の医療機関と切れ目のない医療の提供に努めている。

<第2表 小項目評価の集計結果>

| 分野 | 評価対象項目数 | 1. 計画を大幅に下回る | 2. 計画を下回る | 3. 計画を下回るが計画に近い | 4. 計画を順調に実施している | 5. 計画を大幅に上回る |
|--------------|-----------|--------------|-----------|-----------------|-----------------|--------------|
| 良質で高度な医療の提供 | 9 (2) | | | 3 | 6 (2) | |
| 診療機能を充実する取組み | 3 (1) | | | | 2 | 1 (1) |
| 地域医療連携の取組み | 2 (1) | | | | 2 (1) | |
| 合計 | 14 (4) | | | 3 | 10 (3) | 1 (1) |

※ () は、内数で、重点とした項目数

※法人の自己評価に対して、異なった評価となった項目は、次の2項目となった。

・「良質で高度な医療の提供」分野

「法令・行動規範等の遵守」(自己評価「3」→「4」)

・「診療機能を充実する取組み」分野

「がん診療の取組み」(自己評価「4」→「5」)

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

ア、相談支援体制の充実について、この項目には、セカンドオピニオンについても含まれるので、日常の医療の中で取り組んでいる事を、明記されたい。

イ、がん診療の取組みについては、関連指標からも1年間でかなり顕著な実績が上がっており、評価できる。

ウ、救急の取組みについては、関連指標から見ると年度計画の目標に達していないが、病院の機能として、救急隊との連携における中度・重度の患者の搬送を中心に運営していることを考慮し、救急受け入れ態勢の充実を努力目標として強く打ち出した評価「4」としたい。

エ、5疾病5事業の一つである急性心筋梗塞等の循環器疾患についても、地域医療連携の推進と役割により地域完結型医療に向けた循環器専門医の確保等、更なる取組みをしていただきたい。

2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

(1) 評価結果

A評価（中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる）

(2) 判断理由

小項目評価の集計結果（第3表小項目評価の集計結果を参照）より、「4」の評価を付けたものが16項目に上った。また、「3」の評価を付けたものが2項目あったが、いずれも、計画に定めた制度の整備に向って着手しており、若干の遅れはあるが病院運営上の支障とはならないレベルである。

概ね、重点とした項目については、7対1看護体制の確立や医学生奨学金貸付制度等の創設など人材確保と育成に向けた積極的な取組みもなされており、計画を順調に実施しているとして、大項目の評価としては「A」評価が妥当であると判断した。

【大項目評価にあたり考慮した事項】

① 小項目評価が「4」（計画を順調に実施している）の項目は、次の16件であった。

ア 医師の確保

久留米大学医学部、同教育関連病院との人事交流や研修を通じた連携強化に取り組み、医学生奨学金貸付制度を創設し、5名の学生に貸付を決定し、優秀な人材の確保に努めている。

イ 看護師の確保

7対1看護体制を確立し、質の高い看護を提供するとともに、初任給の改善や新人教育の充実、中途採用の実施、随時募集、病院見学の実施等を行いながら、看護師の確保に取り組んでいる。また、看護学生奨学金貸付制度を創設し、4名の学生に貸付を決定している。

ウ 医療技術職等の確保

採用活動として、大学等への試験案内の送付及び個別訪問等、市の広報紙、新聞

折込みなど広く広報活動を行い、それぞれの職種に応じ、延べ6回の採用試験を行っている。

エ 事務部門の専門性の向上

病院事務に精通しかつ専門知識を有する経験者採用に取組み、延べ2回の採用試験を行った。またOJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）による実務研修や院外の実践的な研修を行った。

オ 院内託児の検討

人材確保の観点から、院内保育所の開設に向け、手続きを進めており、平成23年秋頃の開設を目指している。また財源も、過疎対策事業債（市）等の有効活用を進めている。

カ 高度で専門的な資格や技能の取得の支援

有給の助成制度による認定看護師を1名研修派遣した。また、那覇市立病院との交流研修制度を創設し、2名の人事交流（1ヶ月間）を実施している。

キ 教育・研修の場の提供

各部門積極的に実習生を受入れ、看護部門126人をはじめ、延べ152人を受け入れている。

ク 接遇研修等の実施

委託業者の職員も含め病院に勤務する全ての職員対象に、実践的な接遇研修を行い、264人が参加している。また、接遇週間を年に2回設定し、同時に患者への満足度アンケート（外部委託）を行うとともにその結果は職員の研修の場へ返し、患者ニーズの把握及び接遇の向上に努めている。

ケ 職員採用の基準

高度で専門的な知識や技能、経験を有する優秀な人材を確保するため、看護師等の初任給改善、試験実施時期の見直し、随時募集を行い、これまでの採用試験よりも面接（三次面接の実施）を重視した試験制度に変更している。

コ 柔軟な職員配置

医療職を事務部門への人事交流を実施している。具体的には、薬剤師を事務部門の医薬品購入部門へ配置し、職員の能力開発を図るとともに専門性に基づいた実践的な医薬品購入にあたらせている。

サ 教育研修の支援

病院運営に必要な資格取得にかかる経費負担や認定看護師の資格取得に伴う長期派遣を実施している。

シ 新人事給与制度の確立

病院経営の安定化と職員の努力や成果に報いるための新人事給与制度を平成23年4月に導入している。この制度では、人事評価制度を活用しながら、人材育成を図り、評価を給与や処遇に結びつけることや病院の業績に応じて賞与を増減させる

ことなどを盛り込んでいる。

ス 就労環境の向上

医師の負担軽減策として、ドクタークラーク7名を増員して計14名とし、医師の事務作業の負担軽減や時間外勤務の縮減に結びつけている。また、日々の業務の進捗管理のため、15時30分にチャイムを鳴らすタイムマネジメントを導入して、時間外勤務の縮減に努めている。さらに、就労規則等の改正により、職員のワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境整備に努めている。

セ 派遣職員の段階的なプロパー化

設立団体から派遣された事務職員を、段階的に法人採用の職員と交代させるため、円滑な事務引継ぎに努めている。

ソ 院内協働の精神に基づいた業務運営

病院に勤務する全職員を対象に、法人設立時の集会へ参加を呼掛け、法人の中期計画をポケットサイズのハンドブックとして作成配布し、法人の目指す方向性や計画の共有化を図っている。

タ 業務改善の取組み

業務改善委員会を5回開催し、業務の見直しに取り組んでいる。また、患者サービスの向上の一環として、冬季イルミネーション点灯、外来のタイルカーペットの張替えを行うとともに、外来トイレの全面リニューアルを計画するなど、患者アメニティの改善に取り組んでいる。

<第3表 小項目評価の集計結果>

| 分野 | 評価対象 項目数 | 1. 計画を大 幅に下回る | 2. 計画を下 回る | 3. 計画を下 回るが計画 に近い | 4. 計画を順 調に実施し ている | 5. 計画を大 幅に上回る |
|-------------------------|-------------|------------------|---------------|-------------------------|-------------------------|------------------|
| 人材確保と 育成 | 9 (5) | | | 1 | 8 (5) | |
| 効率的、効 果的な業務 運営の実施 | 9 (7) | | | 1 (1) | 8 (6) | |
| 合計 | 18 (12) | | | 2 (1) | 16 (11) | |

※ () は、内数で、重点項目とした項目数

※法人の自己評価に対して、異なった評価となった項目はなかった。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

ア、教育・研修の提供について、7対1看護体制が導入されたことで、日勤体制に余裕ができ、研修、教育の際にも心配りができていると評価する。

イ、那覇市立病院との交流は、単なる研修であれば、一方的なものになるが、1ヶ月の交流となると実務体験を伴うので、良いことと思う。

今後も継続していただき、看護学校等との交流も行なっていきたい。

ウ、5疾病5事業の一つである急性心筋梗塞等の循環器疾患についても、地域医療連携の推進と役割により地域完結型医療に向けた循環器専門医の確保等、更なる取り組みをしていただきたい。(再掲)

○地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会 委員名簿

| | 氏 名 | 役 職 等 |
|------|---------|------------------|
| 委員長 | 薬師寺 道明 | 久留米大学 学長 |
| 副委員長 | 丑 山 優 | 九州情報大学 経営情報学部教授 |
| 委 員 | 上 野 照 剛 | 帝京大学 福岡医療技術学部学部長 |
| | 下 川 泰 | 元全国自治体病院協議会 副会長 |
| | 下 瀬 和 枝 | 大牟田医師会看護専門学校 副校長 |
| | 西 村 直 | 大牟田医師会 顧問 |

○平成23年度地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会開催経過

| 日 程 | 審 議 議 題 |
|--|--|
| 第1回 平成23年7月12日（火） 北別館4階 第1会議室 | ① 地方独立行政法人大牟田市立病院平成22年度 財務諸表等の報告について ② 地方独立行政法人大牟田市立病院平成22事業 年度に係る業務実績の報告について |
| 第2回 平成23年7月25日（月） 北別館4階 第1会議室 | ① 地方独立行政法人大牟田市立病院平成22事業 年度に係る業務実績に関する評価について 小項目評価について |
| 第3回 平成23年8月9日（火） 北別館4階 第1会議室 | ① 地方独立行政法人大牟田市立病院平成22事業 年度に係る業務実績に関する評価について 小項目評価について 大項目評価について 全体評価について |

地方独立行政法人大牟田市立病院評価委員会 評価一覧

[参考資料]

| 1. 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 (大項目) | | 自己 評価 | 評価 結果 | コメント | |
|---|-------------------|-------------------|----------|---|---|
| 1. 良質で高度な医療の提供 | | | | | |
| (1) 患者本位の医療の 実践 (重点) | ①インフォームド・コンセントの充実 | 4 | 4 | 本取組みにおいては、「セカンドオピニオン」を含めた日常の取組みがなされており、これらも評価対象とした。 | |
| | ②相談支援体制の充実 | 4 | 4 | | |
| (2) 安心安全な医療の 提供 | ①医療安全対策の実施 | 4 | 4 | | |
| | ②院内感染防止策の実施 | 3 | 3 | | |
| (3) 高度で専門的な医療の 提供 | ①高度で専門的な医療の充実 | 3 | 3 | | |
| | ②臨床研究及び治験の推進 | 4 | 4 | | |
| | ③診療機能の見直し | 3 | 3 | | |
| (4) 法令の遵守 | ①法令・行動規範等の遵守 | 3 | 4 | 職員倫理規定について、全職員への周知徹底を図っているが、一人ひとりの職員の法令遵守の意識の更なる向上を求める意味で、法人の自己評価「3」に対して、努力目標を含んだ上で「4」と評価する。 | |
| | ②診療情報等の適正管理 | 4 | 4 | | |
| 2. 診療機能を充実する取組み | | | | | |
| (1) がん診療の取組み (重点) | | 4 | 5 | 関連指標の年度計画目標数に対して、手術件数、放射線治療件数は、実績が大幅に上回っているとともに緩和ケア等に対する取組み等も努力のあとが伺えるので、顕著に計画を上回っていると評価する。 | |
| (2) 救急医療の取組み | | 4 | 4 | 関連指標における救急車搬送患者数は、年度計画の目標に達していないが、救急隊との連携による軽症患者をできるだけ減らしていく努力も功を奏して減少したのものとも思われる。 救急医療の取組みは、重要な項目でもあり、努力目標を強く打ち出した「4」とする。 | |
| (3) 母子医療の取組み | | 4 | 4 | | |
| 3. 地域医療連携の取組み | | | | | |
| (1) 地域医療の支援 (重点) | | ①地域医療の支援 | 4 | 4 | |
| (2) 地域完結型医療の実現 | | ②地域医療機関との役割と機能の分担 | 4 | 4 | 5 疾病 5 事業の一つである急性心筋梗塞等の循環器疾患についても、地域医療連携の推進と役割により地域完結型医療に向けた循環器専門医の確保等、更なる取組みをしていただきたい。 |

| 2. 業務運営の改善及び効率化に関する事項（大項目） | | 自己 評価 | 評価 結果 | コメント |
|----------------------------|---------------------|----------|----------|---|
| 1. 人材の確保と育成 | | | | |
| (1) 病院スタッフの確保（重点） | ①医師の確保 | 4 | 4 | 5 疾病 5 事業の一つである急性心筋梗塞等の循環器疾患についても、地域医療連携の推進と役割により地域完結型医療に向けた循環器専門医の確保等、更なる取組みをしていただきたい。（再掲） |
| | ②看護師の確保 | 4 | 4 | |
| | ③医療技術職等の確保 | 4 | 4 | |
| | ④事務部門の専門性の向上 | 4 | 4 | |
| | ⑤院内託児の検討 | 4 | 4 | |
| (2) 研修制度の整備 | ①教育研修制度の整備 | 3 | 3 | |
| | ②高度で専門的な資格や技能の取得の支援 | 4 | 4 | |
| | ③教育・研修の場の提供 | 4 | 4 | |
| (3) 待遇の向上 | ①待遇研修等の実施 | 4 | 4 | |
| 2. 効率的、効果的な業務運営の実施 | | | | |
| (1) 柔軟で適正な人事給与制度の構築（重点） | ①職員採用の基準 | 4 | 4 | |
| | ②柔軟な職員配置 | 4 | 4 | |
| | ③教育研修の支援 | 4 | 4 | |
| | ④新人事給与制度の確立 | 4 | 4 | |
| | ⑤就労環境の向上 | 4 | 4 | |
| | ⑥職員再雇用制度の検討 | 3 | 3 | |
| | ⑦派遣職員の段階的なプロパー化 | 4 | 4 | |
| (2) 院内協働の推進 | ①院内協働の精神に基づいた業務運営 | 4 | 4 | |
| (3) 病院機能評価の活用 | ①業務改善の取組み | 4 | 4 | |

地方独立行政法人大牟田市立病院

[参考資料]

平成 22 事業年度 予算、収支計画及び資金計画

(中期目標で示されている重点項目)

| |
|----------------------|
| 項目 |
| 単年度収支の黒字を目指す |
| 経常収支比率 100 パーセント超の堅持 |

(計画指標との比較)

| 項目 | 20年度実績 | 21年度実績 | 22年度計画 | 22年度実績 | 計画との差 |
|-----------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 経常収支比率 | 102.2% | 104.6% | 105.7% | 112.8% | +7.1% |
| 病床利用率 | 85.7% | 85.2% | 85.7% | 84.8% | △0.9% |
| 職員給与費比率 (対医業収益) | 48.2% | 46.6% | 52.1% | 48.0% | △4.1% |
| 材料費比率 (対医業収益) | 19.6% | 19.8% | 20.1% | 19.4% | △0.7% |
| 医業収支比率 | 104.9% | 107.1% | 100.6% | 108.7% | +8.1% |
| 平均在院日数 | 13.8日 | 13.4日 | 13.5日 | 12.7日 | △0.8日 |
| 入院単価 | 39,450円 | 42,113円 | 42,900円 | 46,460円 | +3,560円 |
| 外来単価 | 9,207円 | 9,894円 | 10,000円 | 10,324円 | +324円 |

1 予算

(単位 百万円)

| 区 分 | 予算額 | 決算額 | 差額 |
|----------|-------|-------|------|
| 収入 | | | |
| 営業収益 | 7,184 | 7,564 | 380 |
| 医業収益 | 6,618 | 6,987 | 369 |
| 運営費負担金収益 | 553 | 553 | 0 |
| その他営業収益 | 13 | 24 | 11 |
| 営業外収益 | 319 | 314 | △5 |
| 運営費負担金収益 | 261 | 260 | △1 |
| その他営業外収益 | 58 | 54 | △4 |
| 臨時利益 | - | 14 | 14 |
| 資本収入 | - | 3 | 3 |
| 長期借入金 | - | - | - |
| その他資本収入 | - | 3 | 3 |
| その他の収入 | - | - | - |
| 計 | 7,502 | 7,894 | 392 |
| 支出 | | | |
| 営業費用 | 6,164 | 6,127 | △36 |
| 医業費用 | 5,991 | 5,939 | △53 |
| 給与費 | 3,280 | 3,182 | △98 |
| 材料費 | 1,392 | 1,440 | 48 |
| 経費 | 1,294 | 1,296 | 2 |
| 研究研修費 | 26 | 21 | △5 |
| 一般管理費 | 173 | 189 | 16 |
| 営業外費用 | 385 | 384 | △2 |
| 臨時損失 | - | 10 | 10 |
| 資本支出 | 972 | 735 | △237 |
| 建設改良費 | 350 | 113 | △237 |
| 償還金 | 606 | 606 | 0 |
| その他の資本支出 | 15 | 16 | 1 |
| その他の支出 | - | - | - |
| 計 | 7,521 | 7,256 | △265 |

2 収支計画

(単位 百万円)

| 区 分 | 計画額 | 決算額 | 差額 |
|-------------|-------|-------|------|
| 収益の部 | 7,558 | 7,941 | 383 |
| 営業収益 | 7,220 | 7,594 | 374 |
| 医業収益 | 6,610 | 6,980 | 370 |
| 運営費負担金収益 | 553 | 553 | 0 |
| 補助金等収益 | 13 | 24 | 11 |
| 資産見返補助金戻入 | 44 | 0 | △44 |
| 資産見返物品受贈額戻入 | - | 37 | 37 |
| その他営業収益 | - | 0 | 0 |
| 営業外収益 | 316 | 311 | △5 |
| 運営費負担金収益 | 261 | 260 | △1 |
| その他営業外収益 | 55 | 51 | △4 |
| 臨時利益 | 23 | 36 | 13 |
| 費用の部 | 7,502 | 7,383 | △120 |
| 営業費用 | 6,744 | 6,616 | △128 |
| 医業費用 | 6,570 | 6,422 | △148 |
| 給与費 | 3,280 | 3,181 | △99 |
| 材料費 | 1,326 | 1,356 | 31 |
| 経費 | 1,378 | 1,365 | △14 |
| 減価償却費 | 562 | 500 | △62 |
| 研究研修費 | 25 | 20 | △4 |
| 一般管理費 | 174 | 194 | 20 |
| 営業外費用 | 385 | 390 | 4 |
| 臨時損失 | 373 | 377 | 5 |
| 純利益 | 56 | 558 | 502 |
| 目的積立金取崩額 | - | - | - |
| 総利益 | 56 | 558 | 502 |

3 資金計画

〔参考資料〕

(単位 百万円)

| 区 分 | 計画額 | 決算額 | 差額 |
|--------------------|--------|--------|------|
| 資金収入 | 10,002 | 10,254 | 251 |
| 業務活動による収入 | 7,502 | 7,806 | 303 |
| 診療業務による収入 | 6,618 | 6,893 | 275 |
| 運営費負担金による収入 | 813 | 812 | △1 |
| その他の業務活動による収入 | 71 | 101 | 29 |
| 投資活動による収入 | - | - | - |
| 運営費負担金による収入 | - | - | - |
| その他の投資活動による収入 | - | - | - |
| 財務活動による収入 | - | - | - |
| 長期借入れによる収入 | - | - | - |
| その他の財務活動による収入 | - | - | - |
| 市からの繰越金 | 2,500 | 2,448 | △52 |
| 資金支出 | 10,002 | 10,254 | 251 |
| 業務活動による支出 | 6,549 | 6,535 | △15 |
| 給与費支出 | 3,444 | 3,338 | △106 |
| 材料費支出 | 1,392 | 1,430 | 39 |
| その他の業務活動による支出 | 1,714 | 1,766 | 52 |
| 投資活動による支出 | 350 | 129 | △221 |
| 有形固定資産の取得による支出 | 350 | 129 | △221 |
| その他の投資活動による支出 | - | - | - |
| 財務活動による支出 | 622 | 621 | △1 |
| 長期借入金の返済による支出 | - | - | - |
| 移行前地方債償還債務の償還による支出 | 606 | 606 | 0 |
| その他の財務活動による支出 | 15 | 15 | △1 |
| 次年度への繰越金 | 2,481 | 2,969 | 487 |

貸借対照表

(平成23年3月31日)

【地方独立行政法人大牟田市立病院】

(単位:円)

| 科 目 | 金 額 | |
|---------------|---------------|----------------|
| 資産の部 | | |
| I 固定資産 | | |
| 1 有形固定資産 | | |
| 土地 | | 605,600,000 |
| 建物 | 5,669,200,000 | |
| 建物減価償却累計額 | ▲ 233,567,800 | 5,435,632,200 |
| 工具器具備品 | 961,449,123 | |
| 工具器具備品減価償却累計額 | ▲ 269,100,145 | 692,348,978 |
| 車両運搬具 | 6,854,226 | |
| 車両減価償却累計額 | ▲ 2,389,811 | 4,464,415 |
| 有形固定資産合計 | | 6,738,045,593 |
| 2 無形固定資産 | | |
| 電話加入権 | | 102,000 |
| 無形固定資産合計 | | 102,000 |
| 3 投資その他の資産 | | |
| その他 | | 1,176,697 |
| 投資その他の資産合計 | | 1,176,697 |
| 固定資産合計 | | 6,739,324,290 |
| II 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | | 2,968,591,394 |
| 医業未収金 | 1,152,025,206 | |
| 貸倒引当金 | ▲ 48,200,000 | 1,103,825,206 |
| 未収入金 | | 26,612,973 |
| 医薬品 | | 27,290,817 |
| 診療材料 | | 44,747,102 |
| 前払費用 | | 210,000 |
| 流動資産合計 | | 4,171,277,492 |
| 資産合計 | | 10,910,601,782 |

貸借対照表

(平成23年3月31日)

【地方独立行政法人大牟田市立病院】

(単位:円)

| 科 目 | 金 額 | | |
|--------------------|------------|---------------|----------------|
| 負債の部 | | | |
| I 固定負債 | | | |
| 資産見返負債 | | | |
| 資産見返補助金等 | 2,878,924 | | |
| 資産見返物品受贈額 | 93,020,755 | 95,899,679 | |
| 移行前地方債償還債務 | | 7,683,749,974 | |
| 引当金 | | | |
| 退職給付引当金 | | 1,154,818,604 | |
| リース債務 | | 12,135,410 | |
| 固定負債合計 | | | 8,946,603,667 |
| II 流動負債 | | | |
| 一年以内返済予定移行前地方債償還債務 | | 653,295,046 | |
| リース債務 | | 12,575,220 | |
| 未払金 | | 467,634,091 | |
| 未払消費税等 | | 6,074,300 | |
| 預り金 | | 25,362,181 | |
| 引当金 | | | |
| 賞与引当金 | | 140,852,810 | |
| 流動負債合計 | | | 1,305,793,648 |
| 負債合計 | | | 10,252,397,315 |
| 純資産の部 | | | |
| I 資本金 | | | |
| 設立団体出資金 | | 100,000,000 | |
| 資本金合計 | | | 100,000,000 |
| II 資本剰余金 | | | |
| 資本剰余金 | | 102,000 | |
| 資本剰余金合計 | | | 102,000 |
| III 利益剰余金 | | | |
| 当期未処分利益 | | 558,102,467 | |
| (うち当期総利益) | | (558,102,467) | |
| 利益剰余金合計 | | | 558,102,467 |
| 純資産合計 | | | 658,204,467 |
| 負債純資産合計 | | | 10,910,601,782 |

損益計算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

【地方独立行政法人大牟田市立病院】

(単位:円)

| 科 目 | 金 額 | |
|-------------------|---------------|---------------|
| 営業収益 | | |
| 医業収益 | | |
| 入院収益 | 5,034,419,558 | |
| 外来収益 | 1,841,620,029 | |
| その他医業収益 | 121,310,950 | |
| 保険等査定減 | ▲ 17,798,715 | 6,979,551,822 |
| 運営費負担金収益 | | 552,642,442 |
| 補助金等収益 | | 24,202,300 |
| 寄付金収益 | | 20,000 |
| 資産見返補助金等戻入 | | 99,776 |
| 資産見返物品受贈額戻入 | | 37,396,224 |
| 営業収益合計 | | 7,593,912,564 |
| 営業費用 | | |
| 医業費用 | | |
| 給与費 | 3,180,545,830 | |
| 材料費 | 1,356,193,518 | |
| 経費 | 1,364,502,116 | |
| 減価償却費 | 498,931,685 | |
| 研究研修費 | 20,299,722 | |
| たな卸資産減耗費 | 1,411,661 | 6,421,884,532 |
| 一般管理費 | | |
| 給与費 | 169,150,827 | |
| 経費 | 18,757,070 | |
| 減価償却費 | 6,126,071 | 194,033,968 |
| 営業費用合計 | | 6,615,918,500 |
| 営業利益 | | 977,994,064 |
| 営業外収益 | | |
| 運営費負担金収益 | | 259,702,321 |
| 患者外給食収益 | | 4,800 |
| 財務収益 | | |
| 受取利息 | 1,719,702 | 1,719,702 |
| 営業外雑収益 | | 49,622,290 |
| 営業外収益合計 | | 311,049,113 |
| 営業外費用 | | |
| 財務費用 | | |
| 移行前地方債利息 | 383,620,078 | 383,620,078 |
| 患者外給食材料費 | | 4,578 |
| 雑支出 | | 6,130,683 |
| 営業外費用合計 | | 389,755,339 |
| 経常利益 | | 899,287,838 |
| 臨時利益 | | |
| 保険金収入 | | 13,751,424 |
| 物品受贈益 | | 22,161,727 |
| 臨時損失 | | |
| 固定資産除却損 | | 2,140,932 |
| 退職給付会計基準変更時差異の処理額 | | 341,622,130 |
| 過年度損益修正損 | | 60,000 |
| その他臨時損失 | | 33,275,460 |
| 当期純利益 | | 558,102,467 |
| 当期総利益 | | 558,102,467 |

キャッシュ・フロー計算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

【地方独立行政法人大牟田市立病院】

(単位:円)

| | |
|-----------------------------|-----------------|
| I 業務活動によるキャッシュ・フロー | |
| 材料の購入による支出 | ▲ 1,430,474,171 |
| 人件費支出 | ▲ 3,338,416,590 |
| 医業収入 | 6,892,642,193 |
| 運営費負担金収入 | 812,344,763 |
| 補助金等収入 | 24,736,000 |
| その他 | ▲ 1,308,020,780 |
| 小計 | 1,652,811,415 |
| 利息の受取額 | 1,719,702 |
| 利息の支払額 | ▲ 383,620,078 |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 1,270,911,039 |
| II 投資活動によるキャッシュ・フロー | |
| 有形固定資産の取得による支出 | ▲ 128,915,429 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | ▲ 128,915,429 |
| III 財務活動によるキャッシュ・フロー | |
| 移行前地方債償還債務の償還による支出 | ▲ 606,497,788 |
| リース債務の返済による支出 | ▲ 14,874,475 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | ▲ 621,372,263 |
| IV 資金増加額 | 520,623,347 |
| V 資金期首残高 | 2,447,968,047 |
| VI 資金期末残高 | 2,968,591,394 |